

16. 鰐口^{わにぐち}

■ 指定日

昭和45年3月30日

■ 種別

兵庫県指定有形文化財 工芸品

■ 年代

南北朝時代

■ 所在地

朝来市山東町大月 埋蔵文化財センター

■ 所有者

朝来市



■ 内容

径45cm、厚さ15cm、重さ19kgの青銅製で完存する。撞座に優美な八葉複弁の蓮華を表わし、内区、外区の銘帯の間を3条の細い線で区切り、縁には2条の線を配している。銘帯の上部に「但馬国」右方に「大林寺 願主五郎左衛門尉幸信」左に「嘉慶二年戊辰正月十八日 大工橘守正」の刻文がある。(嘉慶は北朝年号)

大林寺は山東町迫間、愛宕山中腹にあり、宝平山と号し和銅3年(710)藤原不比等によって創建され、中世にはかなりの規模(七堂伽藍)をもった寺院であったと伝えている。

この鰐口は嘉慶2年(1388)に製作されており、但馬では在銘鰐口中、最古のものである。